

地域ケア会議について

○今日のお話し

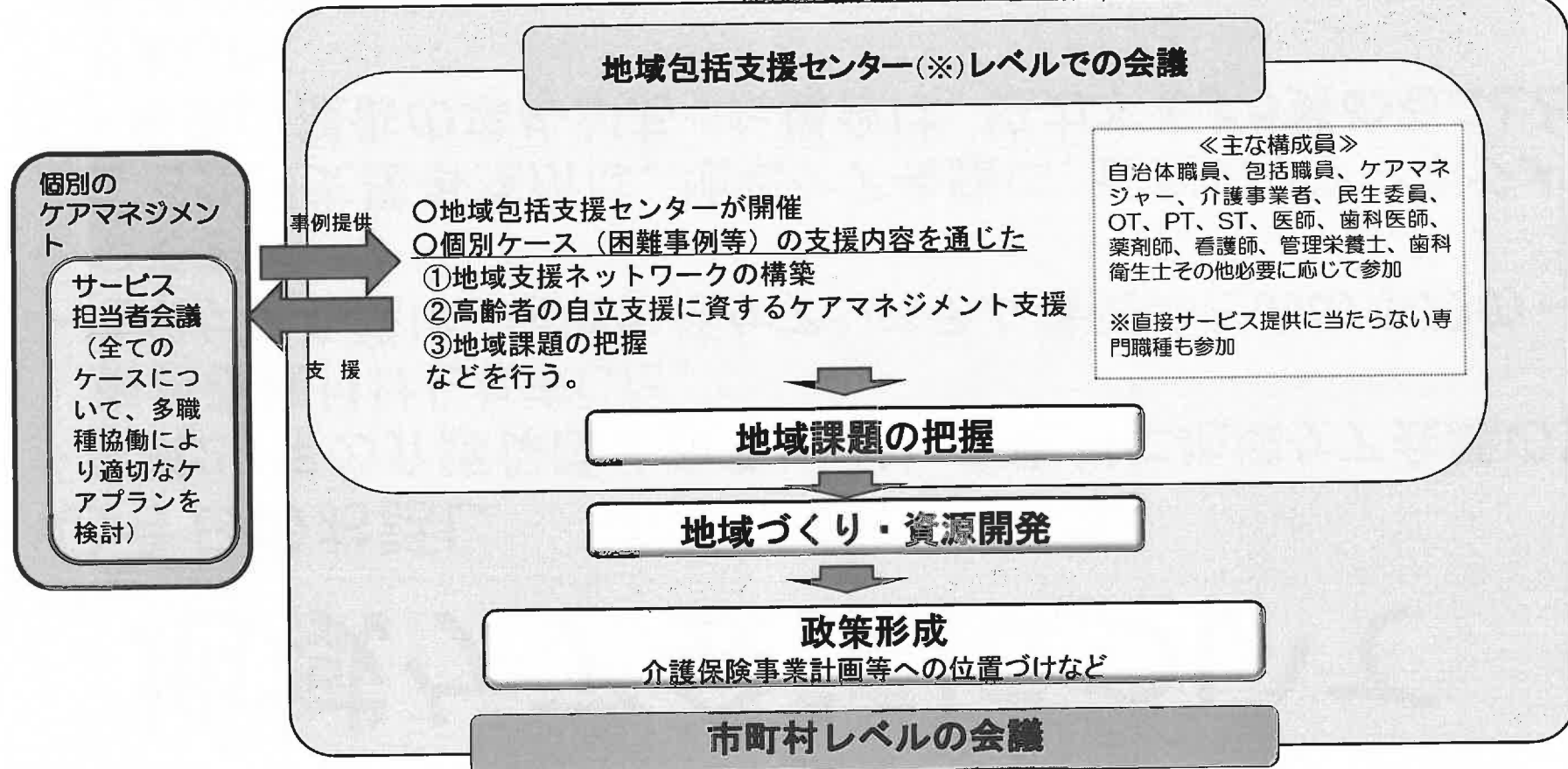
- ・平成27年の介護保険法改正により、市町村に地域ケア会議の実施が義務付けられました。
- ・地域ケア会議は、地域包括ケアシステム構築のための手段の一つです
- ・居宅介護支援事業所は、地域ケア会議に、個別のケアマネジメント事例の提供の求めがあった場合は、協力するよう努めることとなりました。
- ・地域の「困難事例」「困りごと」を最も把握しているのは、ケアマネージャーです。また、マネジメント能力を持っているのも、ケアマネージャーです。
- ・地域包括ケアシステム構築のため、ケアマネージャーの知見が必要です。

岐阜県健康福祉部高齢福祉課

「地域ケア会議」について

- 地域包括ケアシステムの構築のためには、①高齢者個人に対する支援の充実と、②それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく必要がある。
- 地域ケア会議は、それを実現するためのツール。具体的には、
 - ・ 多職種の第三者による専門的視点を交えて、ケアマネジメントの質の向上を図り、高齢者の在宅生活の限界点を引き上げ、
 - ・ また、個別ケースの課題分析等の積み重ねにより、地域課題を把握し、
 - ・ 地域に必要な資源開発や地域づくり、さらには介護保険事業計画への反映などの政策形成につなげる、
- 個別ケースを検討する会議は、主に地域包括支援センターが開催。
一方、地域づくりや政策形成等につなげる会議は市町村が開催。

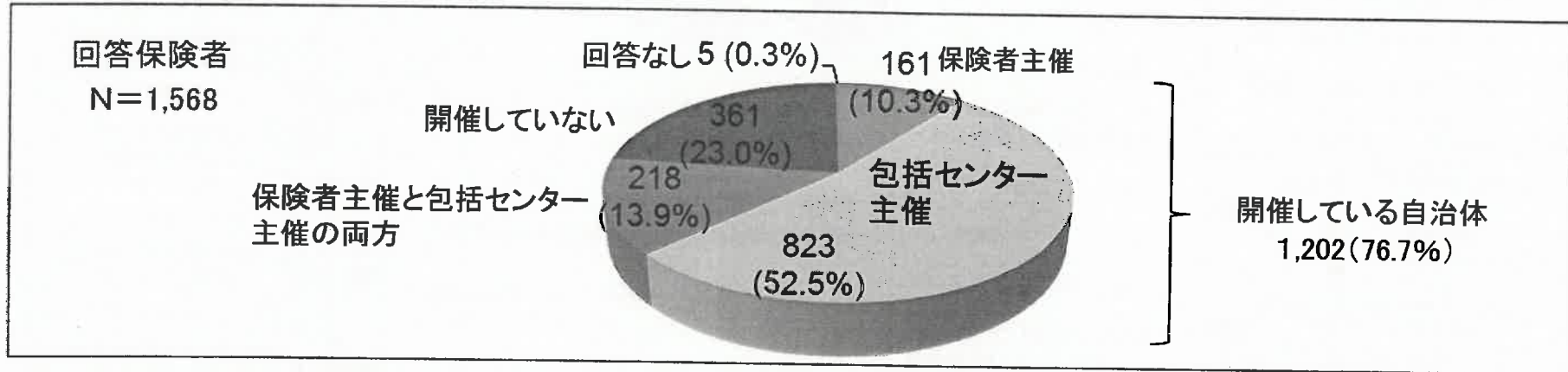
※地域包括支援センターの箇所数：4,224ヶ所(センター・ブランチ・サブセンター合計7,173ヶ所)



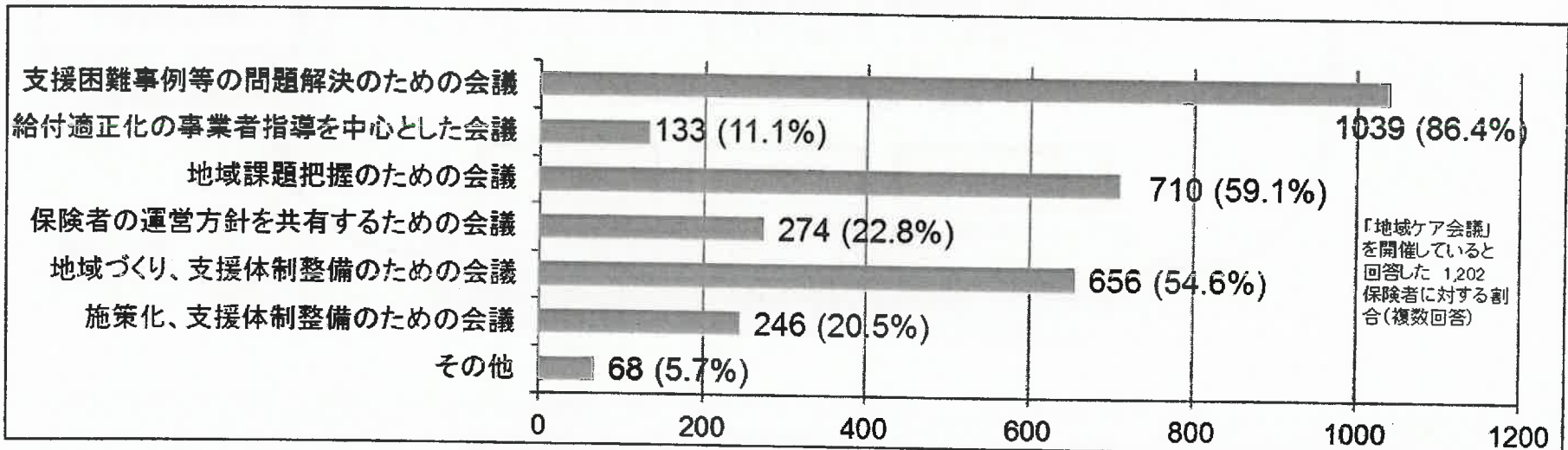
地域ケア会議の開催状況

- 地域ケア会議を開催している自治体の割合は77%
- 会議の主催は、包括センターが53%と最も多く、保険者と包括センターの両方が14%、保険者が10%
- 会議の内容は、支援困難事例等の問題解決が86%と最も多く、地域課題把握が59%、地域づくり等が55%

■地域ケア会議の開催状況

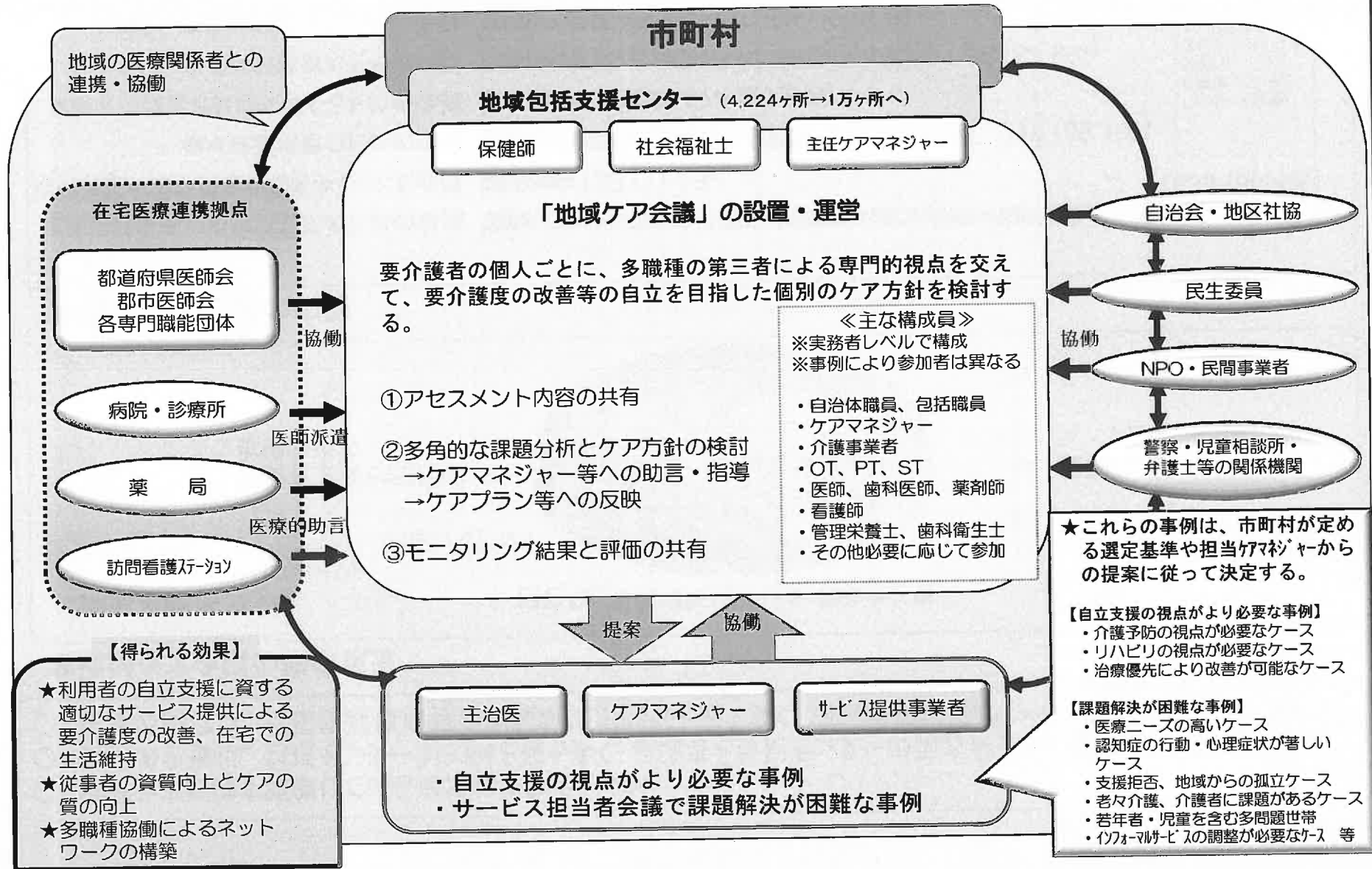


■地域ケア会議の内容



(資料)「第5期市町村介護保険事業計画の策定過程等に係るアンケート調査結果について」(平成24年8月21日 老健局介護保険計画課)

「地域ケア会議」のイメージ



多職種協働による「地域ケア会議」の意義



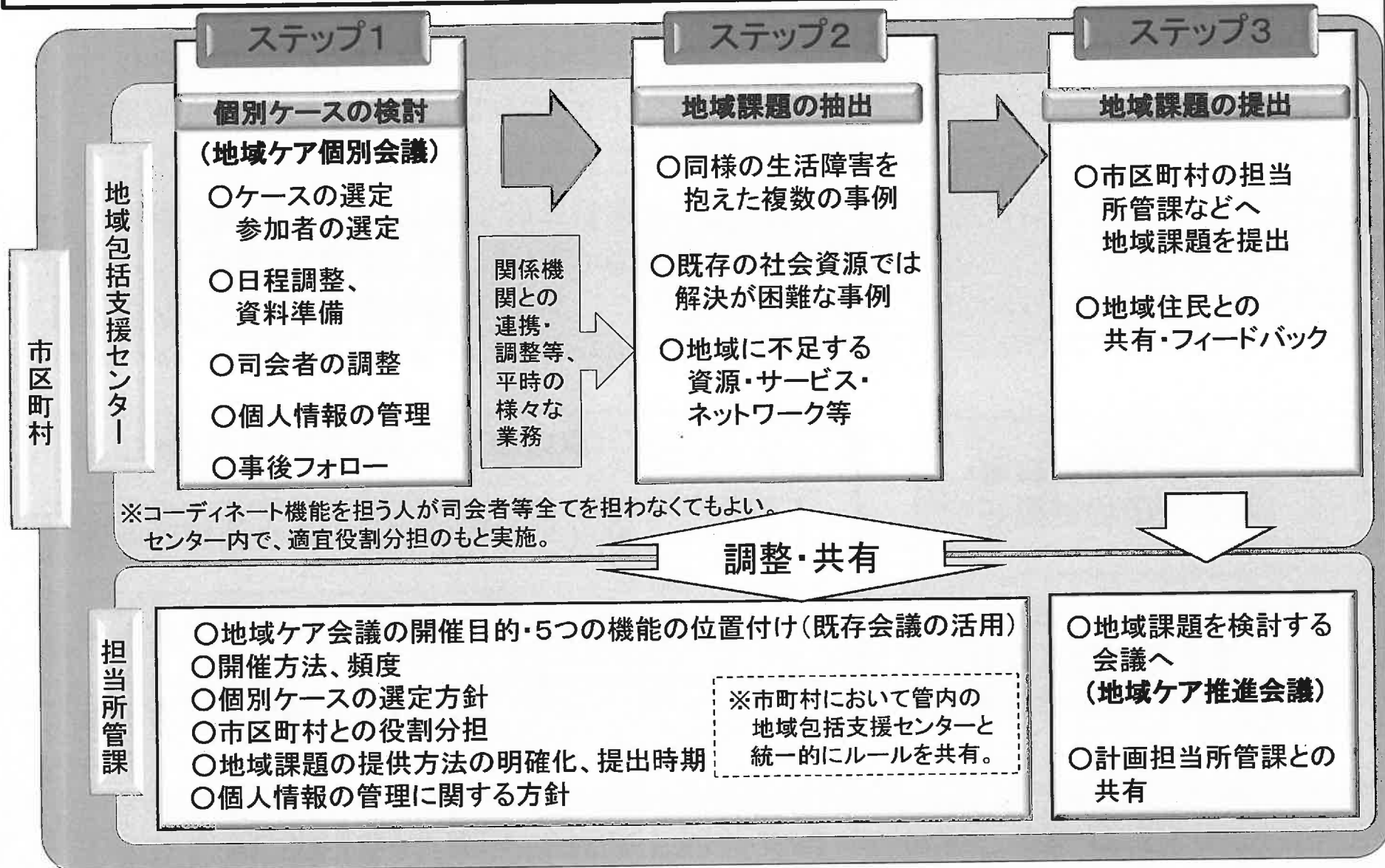
サービス担当者会議との違い

「地域ケア会議」における個別事例の検討は

- ・介護保険法に基づく「包括的支援事業」の一環として、地域包括支援センターが主体となり、サービス提供者以外の第三者を含めて実施されること
- ・個別事例の課題だけでなく、エリア内の住民ニーズ、サービス資源、ケアの質の課題も浮き彫りにすること
- ・個別事例を通して把握した課題を地域課題として、次のステップにつなげる機能を持つこと

〈 地域ケア会議を運営する上で求められるコーディネート機能 〉

- 地域包括支援センターにおいては、個別ケースの検討を始点として、地域課題の抽出、地域課題の提出までの一連の流れを円滑に進めるコーディネート機能が求められる。



「地域ケア会議」の具体例

要支援2で週2回訪問介護を利用中 自宅に閉じこもりがちで 運動機能が低下していくAさん

〈現行プランに関するケアマネの考え方〉

- ・目標は安心・安楽に過ごすこと
- ・腰痛があるため家事援助が必要
- ・通所系サービスは希望していない

なぜこのような状況になっているか？ 再アセスメント

- ・腰痛の原因は骨粗鬆症と筋力低下
- ・デイサービスで1日過ごす自信がない
- ・本当は退屈で買い物に行きたい

【地域ケア会議】

生物学的要因、心理社会的要因、環境要因等进行分析して将来予測

多職種による助言・指導

主任
ケアマネ

- ・本人の能力を生かしたサービス調整が必要では？
- ・予防訪問介護が家事の代行になっていないか？
- ・ヘルパーがケースの能力発揮の機会を奪っていないか？

保健師

- ・治療内容について主治医に確認しているか？
- ・痛みのコントロールによってリハビリが可能では？
- ・ケースの意欲と家族介護の内容を調整しては？

PT

- ・骨粗鬆症の悪化防止には、適度な運動が必要
- ・このままでは廃用症候群が進行し腰痛が悪化する
- ・予防訪問リハを利用してはどうか？

管理
栄養士

- ・骨粗鬆症には、栄養面の改善が必要
- ・1日2食しか食べておらず、食事内容は炭水化物ばかりで、カルシウムやタンパク質が足りない
- ・お昼に配食サービスを利用してはどうか

歯科
衛生士

- ・義歯が合わず、歯のない状態で食事しているため栄養も偏る。早期に義歯調整をした方がよい。

ケアプランの見直し結果【例】

- ・買い物に出かけることを目標に、自分でできることは自分でやれるよう、本人・家族と調整
- ・主治医と相談し、腰痛緩和の処方と訪問リハビリを導入→負担の少ない動作と自宅でできる運動
- ・デイサービスに通う自信がつくまで、自治会主催のサロンに参加
- ・歯科通院の同行は、娘によるインフォーマルサービスに追加
- ・配食サービスを利用し、1日3回食事することと、バランスの良い食事摂取の習慣をつける
- ・1ヶ月後のモニタリング結果をもとに、主治医の参加を得て再度プランの検討を行う

介護の将来像(地域包括ケアシステム)

地域包括ケアシステム構築におけるケアマネージャーへの期待

- 実際に、「困難な事例」を知っており、「何に困っているか」具体的にわかる
- ケアマネジメント経験が豊富であり、支援の方向性が見いだせる。
- 地域全体のマネジメントが期待されている

